

第9回 JMTX ウェビナー Q&A

「アメリカの眼科はどこへ行く？ 保険は使える？ — 専門家が解説するアメリカの眼科事情 —」

***ウェビナー内で講師がお答えしたものと、Q7 については JMTX 事務局による補足回答となります。ご了承ください。

Q1. 網膜裂孔のレーザー治療後、飛蚊症が増えました。飛蚊症を取り除く手術はありますか？

回答：

飛蚊症を改善する手術として、硝子体手術（Vitrectomy）があります。眼球内のゼリー状の組織である硝子体を取り除くことで、飛蚊症の原因となっている濁りを除去します。

ただし、飛蚊症は時間とともに脳が慣れ、気にならなくなることが多いため、一般的には手術を積極的に勧めません。手術には感染症や視力低下などのリスクが伴うためです。

症状が非常に強く、生活に支障がある場合には手術が選択肢となります。術後の回復期間は通常 2～4 週間程度です。

▶ ウェビナー動画（1:06:34～）

Q2. 白内障手術は一般的な手術ですか？ また、信頼できる眼科医はどう探せばよいですか？

回答：

白内障手術は世界で最も多く行われている手術であり、眼科では非常に一般的な手術です。手術そのものは通常 15 分程度ですが、症例の複雑さによって異なります。

白内障があっても、日常生活に支障がなければ必ずしも手術を受ける必要はありません。運転や読書などに影響が出てきたときに、手術を検討する目安になります。

信頼できる眼科医を探す方法として、Google の口コミや US News などの医療関連サイトで、地域の眼科医の評価を調べる方法が紹介されました。

▶ ウェビナー動画（1:08:20～）

Q3. アメリカの室内照明は日本より暗いように感じます。子どもの視力低下に影響しますか？

回答：

暗い室内環境と子どもの近視進行には、関連がある可能性を示す研究があります。ただし、その科学的根拠はまだ十分に強いものではありません。

一方、屋外の明るい光を浴びることが近視の進行を抑える可能性については、比較的に強い研究結果があります。

そのため、室内の明るさだけを心配するよりも、子どもが毎日 30 分～1 時間程度、屋外で過ごす時間を確保することが実践的な対策としてお勧めいたします。

▶ ウェビナー動画（1:11:23～）

Q4. 子どもの視力検査は、大きな病院の検眼医と眼鏡店にいる検眼医のどちらがよいですか？

回答：

どちらでも問題ありません。

大きな医療機関は安心できる選択肢ですが、地域の検眼医（Optometrist）にも優れた専門家が多くいます。

Googleなどで評判を確認し、信頼できる検眼医を選ぶことが勧められました。必ずしも大きな病院で診てもらう必要はありません。

▶ ウェビナー動画（1:13:25～）

Q5. 眼鏡は検眼医のところで購入するのと、デパートなどで購入するのとで違いがありますか？

回答：

一般的には、検眼医のクリニックで購入しても、デパートなどの眼鏡店で購入しても、大きな違いはありません。

ただし、オンラインで眼鏡を購入する場合には注意が必要です。

眼鏡を適切に作製するためには、瞳孔間距離などの正確な測定が重要です。そのため、専門スタッフによる測定を受けずにオンラインで注文することには慎重であるべきだと思います。

▶ ウェビナー 動画（1:14:31～）

Q6. 毎年検眼医の診察を受けていますが、散瞳検査をしません。別の検眼医に変更した方がよいですか？

回答：

散瞳検査が必要かどうかは、診察の目的や患者さんの状態によって異なります。

例えば、ドライアイなど眼の表面に関する問題で受診している場合には、散瞳検査を行わないことも合理的です。

また、以前に散瞳検査を受けており、眼の状態が安定している患者さんでは、眼底写真による経過観察が選択されることもあります。

一方、糖尿病のスクリーニングなどを含む包括的な眼科検査では、散瞳検査が望ましいです。

特に、網膜に関する症状がある場合や、毎年の総合的な眼科検査を希望しているにもかかわらず散瞳検査も眼底写真も行われない場合は、散瞳検査を実施する医師への受診を検討するとよいでしょう。

▶ ウェビナー動画（1:15:48～）

Q7. Medicare では、Health Insurance と Vision Insurance の両方がカバーされますか？

回答：

Medicare では、加入しているプランによって眼科診療の補償範囲が異なります。

Original Medicare（Part A・Part B）では、白内障、緑内障、糖尿病網膜症など、医学的に必要な眼科診療や一定の検査・治療がカバーされます。一方、眼鏡やコンタクトレンズの処方を目的とした通常の視力検査、眼鏡・コンタクトレンズの購入費用は、原則としてカバーされません。

ただし、白内障手術で眼内レンズを挿入した場合などには、術後の眼鏡またはコンタクトレンズが一定の条件でカバーされる例外があります。

Medicare Advantage（Part C）は民間保険会社が提供する Medicare プランで、Original Medicare の給付に加えて、通常の視力検査、眼鏡、コンタクトレンズなどの Vision Benefits が含まれている場合があります。

したがって、Medicare で眼科診療と Vision Care の両方がカバーされるかどうかは、加入しているプランによって異なります。

具体的な補償内容は、Medicare 公式サイト（[Medicare.gov](https://www.medicare.gov)）または加入している保険会社で確認することをお勧めします。《JMTX 事務局より》

Q8. 子どもの近視進行を抑えるオルソケラトロジーは、アメリカでも普及していますか？ 医師はどのように選べばよいですか？

回答：

オルソケラトロジーは、夜間に特殊なコンタクトレンズを装着して角膜の形状を変化させ、日中の近視を軽減するとともに、近視の進行を抑えることを目的とした治療法です。

東アジアや東南アジアでは近視の患者さんが多いため、研究や臨床での使用が比較的進んでいます。アメリカでも行われていますが、東アジアほど一般的ではありません。

低濃度アトロピン点眼も近視進行抑制の選択肢として紹介され、その効果はオルソケラトロジーと同程度、あるいはそれ以上である可能性があります。

一方、オルソケラトロジーにはコンタクトレンズ使用に伴う感染症のリスクがあります。治療を検討する場合は、小児眼科専門医（Pediatric Ophthalmologist）に相談することをお勧めします。

▶ ウェビナー動画（1:18:01～）